2026 年 11 月 25 日

各位

会　社　名　　Chordia Therapeutics 株式会社
代 表 者 名　　代表取締役　三宅　洋
（コード番号：190A　東証グロース市場）
問 合 せ 先　　IR マネジャー　吉良　亜実
TEL : 03-6661-9543
MAIL : info@chordiatherapeutics.com

CDK12 阻害薬 CTX-439 に関する共同研究成果の論文掲載のお知らせ

Chordia Therapeutics 株式会社（本社：神奈川県藤沢市、代表取締役：三宅洋）は、当社が前臨床開発研究中の CDK12 阻害薬 CTX-439 に関して、その作用機序の解明および治療効果を高める併用療法について京都大学および三重大学との共同研究を実施しており、その研究成果が、2026 年 11 月 24 日に *EMBO Molecular Medicine* 誌に掲載されましたのでお知らせします。

論文概要

CTX-439 は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼのサイクリン依存性キナーゼ（CDK）ファミリーに属し、mRNA 転写の伸長と終結反応を制御する CDK12 と CDK13 に対して、高い選択性を有する経口投与可能な低分子キナーゼ阻害薬です。CTX-439 は、がん細胞の生存に不可欠な mRNA の生成過程を阻害し、細胞増殖に必要なタンパク質の産生を抑制することで、がん細胞に過剰なストレスを与えて死滅させる新しい作用機序を持つ薬剤です。

今回の論文では、CTX-439 の作用機序の詳細な解析により、CTX-439 が引き起こす転写異常と、それらの異常を介してがん細胞に細胞死が誘導される仕組みを新たに明らかにしました。さらに、CTX-439 による転写異常に伴ってがん細胞に新たな弱点が生じることを見出し、その弱点を標的とする薬剤と CTX-439 とを組み合わせることで、抗腫瘍効果が増強されることを示しました。

本研究は、CTX-439 の作用機序に対する理解を深めるとともに、その作用機序に基づく新たな併用治療戦略の可能性を示すものです。今後の臨床研究および治療戦略の検討に資する基盤的知見となることが期待されます。

論文情報

CDK12/13 inhibition by CTX-439 creates a targetable BCL-2/BCL-xL dependency

EMBO Molecular Medicine, Nov. 24, 2026

URL：https://link.springer.com/article/10.1038/s44321-026-00549-8

投稿先の学術誌について

EMBO Molecular Medicine は European Molecular Biology Organization（EMBO、欧州分子生物学機構）が発行する、実験医学分野におけるトランスレーショナル研究および生物医学研究を扱う国際的なオープンアクセス学術誌です。創薬を含む幅広い医学・生命科学領域を対象としており、疾患の分子メカニズムの理解を深め、前臨床モデルやヒトでの研究を通じて臨床応用につながる研究成果を掲載しています。

用語集

用語	解説
キナーゼ	基質となるタンパク質にリン酸基を付与することで、その機能のオン/オフを制御するタンパク質の総称
CDK（サイクリン依存性キナーゼ）	細胞の増殖や遺伝子発現の制御に関わるキナーゼの一群で、サイクリンと呼ばれるタンパク質と結合して機能する
RNA	Ribonucleic acid リボ核酸の略で、遺伝子である DNA からタンパク質を生成するために必要な物質。ゲノム DNA から転写されたメッセンジャーRNA（mRNA）、タンパク質合成時に利用されるトランスファーRNA（tRNA）などがある
mRNA 転写	DNA に書かれた遺伝情報を読み取り、mRNA として書き写す仕組みであり、この mRNA をもとに細胞がタンパク質をつくるための、生命活動の出発点となる重要なプロセス

なお、本共同研究は、京都大学医生物学研究所の遊佐宏介教授を研究代表者として、京都大学大学院医学研究科 乳腺外科 戸井雅和教授（研究当時）、三重大学医学部附属病院乳腺センター 河口浩介教授らとともに実施されました。本研究は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「革新的がん医療実用化研究事業」の支援を受けました。

京都大学プレスリリース

https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2026-11-25

三重大学プレスリリース

https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2026/11/cdk1213.html

Chordia Therapeutics 株式会社について

当社は、臨床開発品を擁するがん領域専門の研究開発型バイオベンチャーとして、神奈川県藤沢市を本社として活動しています。当社のリードパイプラインである CLK 阻害薬 rogocekib（CTX-712）は、米国での第 1/2 相試験を進行中です。rogocekib は、がんの脆弱性をターゲットにしており、有望な治療薬としての可能性が期待されています。また、当社は、リードパイプラインの rogocekib、MALT1 阻害薬 ocipumaltib （CTX-177） に加え、CDK12 阻害薬 CTX-439、GCN2 阻害薬など、複数のパイプラインの研究開発に取り組んでいます。

詳細は、当社ウェブサイト（https://www.chordiatherapeutics.com/）をご覧ください。